

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491300196		
法人名	株式会社 オルゴール		
事業所名	グループホーム 奏 - kanade -		
所在地	三重県名張市安部田字花山2309番地		
自己評価作成日	平成27年5月22日	評価結果市町提出日	平成27年8月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2491300196-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成27年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族介護の軽減と「入居者(家族)善し、職員善し、社会善し」の三方善しの考えそして、介護保険サービスにあるサービスの付加価値を重視したホームでの共同生活の提供をもって入居者個々の能力の維持を活かした支援を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は集落の中心に位置し、隣接に同法人の通所介護事業所があり、周辺は自然豊かで常に四季の移り変わりを肌で感じ取れる環境に恵まれている。法人代表は高齢化が進む現状を見て、自ら事業所を立ち上げ高齢者の暮らしの支援をしたいとの厚い思いから、高齢者介護の実践を経て4年前に通所介護事業、2年前にグループホームを開設された。常に地域に根ざした運営を目指して『家族介護の軽減、利用者、職員、地域の三方善し…』をモットーに掲げ、高齢者介護に豊富な知識と経験をもち、利用者と家族、職員に全幅の信頼がある管理者の下、利用者一人一人の意思を尊重しながら、何事も利用者本位での暮らしがされている。地域社会との繋がりを大切にしながら、家庭的な雰囲気の中職員は何時も笑顔で接し、利用者全てが表情が明るく穏やかであり、利用者のペースで生き生きと暮らしている様子が伺える。又、看護師が2名配置されかかりつけ医との連携等により、入居時から3名の利用者が介護度が改善する等家族も安心できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所では、管理者・職員・入居者(家族)との3者が、あらゆる場面でのコミュニケーションを意識し、ホーム生活を充実して頂ける事と形にとらわれず個々の個性を尊重した対応を理念とし、日々実践し努力に励んでいる。	法人の理念(idea)『利用者、職員、地域の三方善し…』とともに、利用者の介護度が改善した要因を踏まえ、職員の共通認識として『利用者一人ひとりの趣味、生き甲斐を見つけケアに活かす』を掲げ実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会が運営し廃校になった小学校で栽培している「きのこ」を自治会職員さんが施設へ持参してくれたり、毎年実行する桜まつりへの参加は積極的に行っている。	自治会には準会員として加入しており、地域の会報が毎月届けられ、地域のイベントやコミュニティーバスの運行等に協賛している。また、通所介護事業所と合同の『音楽セラピー』に地域の方に参加を呼び掛ける等、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記内容にあるように、地域の自治会(会長)様からご理解・支援をもらい、地域での行事企画などの連絡がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で挙げた提案。入居者と職員が一体となってプランターでの野菜づくりなど取り組みを少しずつですがしている。	運営推進会議の必要性は理解され、会議で出た意見で野菜作り等運営に活かしているが、開催は年2回に留まっている。	運営推進会議は地域の理解と支援を得るための貴重な機会です。市・自治会の協力を得ながら、参加者を固定せず、身近なテーマで気軽に取組まれ、定期的開催されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	名張市高齢・障害支援室との事業所運営で役に立つ補助金活用での連絡をはじめ社会福祉事務所からの定期的な訪問など協力関係に取り組んでいます。	生活保護の利用者がおり、市から事業所に、事業所から市に定期的に出向き、相談事や情報交換する等連携している。又、市主催の会議や研修会には積極的に参加している。日常的な相談事は『まちの保健室』で行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在まで、身体拘束の事例はありません。	管理者がミーティング時や毎月の職員会議の機会に、日々の気付きから身体拘束について話し合いが行われ、玄関の施錠はもちろん身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同上		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は同書を照らし合わせわかりやすくご理解して頂けるように配慮しています。また、質問等お互いが納得できた形式にて今まで契約に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、日常生活内で会話を積極的に重視し個々の意見や要望並びに家族様の意見を聞く事でニーズ対応につながるようにしています。また、行事などを写真に収め定期的にアルバム作成し外部への発信ツールとして活用している。	面会時と食事会やおやつ会(バーベキュー、クリスマス)等に家族を招き、利用者個々の暮らしの様子や職員の気付きを話し、気軽に意見・要望を言える関係づくりに心掛け、出された意見は運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催し、職員の意見や提案のできる場を設けている。また、言いにくいことは職員提案ノートを作成しそこに意見を伝える機会を設けている。	管理者と職員の垣根はなく、事業所内のコミュニケーションは良い。日々ケアの場、毎月の職員会議と職員提案ノートで多くの意見、アイデアが出され(プランターでの野菜作り等)ケアの場で活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員内での意識向上を前提に、実績や努力、勤務態度の良好な職員にはそれらに似合った条件整備をし、サービス提供の向上につながるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格取得ができるようにしています。今季は「介護職員初任者研修(2名)」「介護福祉士技術者研修(3名)」への参加に取り組んだ。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区域内(錦生地区)に今春開設した小規模多機能型事業所の開設までの交流をはじめ、新規にて開設したデイサービスの立ち上げまでの提携協力を通じて情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期(入居時)では、書面・書類だけで本人を理解せず引継ぎには関わりの合った事業所や掛かりつけの医療機関へ話を聞き、その後の対応支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の抱えている悩み、入所後の協力相談は事業所の可能な限りの取り組む努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時には特に定期受診(通院)の同行の要望が多く、事業所として断ることなく実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活色を意識し、家庭で行うこと(家事・炊事の手伝い)の含め菜園の水やりやシーツ交換の手伝いなど職員と共同作業をし、関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様がライブショーを開催してくれたり高校生の懐メロショーやハーモニカ演奏など家族と一緒に皆で時間を共有し、一層の絆をもって支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた自宅の庭にある柿の木にカキを取りに行ったり、また以前より参加していた名張市社会福祉協議会(ふれあい)の体操に参加したりしている。	利用者が高齢であり、知人や友人との係りを継続するのは困難であるが、誰でも気軽に面会できるように心掛けている。隣接の通所介護事業所との交流で知人との出会い、かかりつけ医への定期的な通院、自宅へ柿狩りに出かける等、出来るだけ馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活する者同士お互いの尊厳を尊重し連帯感を持ってもらうように料理の手伝いや洗濯など複数で作業をしてもらっている。また、皆さん歌が好きなので合唱する時間も設けて連帯感を持つ時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居しても引継ぎに協力し、ご家族様からの支援を含めた相談をしています。また、ご家族様からのお礼の言葉に感謝している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設内での生活を個々の生活リズムや性格などを考慮して、特に趣味の時間を大切にしてもらうように心掛けている。	その日の体調や表情から、日々の暮らしの中で利用者と一対一となる入浴時、通院時等にさり気ない会話から思いや意向を聞き入れ、又、家族からの情報を得ながら思いや意向を把握している。把握した事は申し送りや職員会議で話し合い職員皆が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生き立ち・家庭環境を反映し、束縛しない努力に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人身体状況が大きく違うので看護師や主治医の健康管理・定期受診の結果を把握して個々の生活に反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画や日常の経過観察は定例会議にてケアマネ・看護師・職員がチーム一体となって意見交換をし、それらを反映した計画書の作成に取り組んでいる。	介護計画(ライブサポートプラン)の見直しは定期的(6ヶ月毎)にしている。日々の介護記録を基に、計画作成者がモニタリングをし、看護師等関係職員参加のケア会議で話し合い計画を作成している。見直し後の計画は家族に確認してもらい、最終家族の意見を反映した計画に仕上げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録書は、使用様式を2部作成し1日の身体状況を常に記載し、一人一人ファイル保存しています。また、職員間では職員ノートを設け日常の引継ぎ(申し送り)をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院をはじめ急な受診や服薬の管理など流動的な要望を怠ることなく多機能かつ柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	恒例となっている地域の桜まつりに出向いたり、外食を行ったりと心身機能の充実を図れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や透析利用の入居者の通院を行い、連絡票をファイル作成し、情報交換する書面を設け病院と事業所との繋がりを持って、関係を築いている。	全て利用者と家族の希望するかかりつけ医で定期的に通診している。受診は原則家族の付き添いとしているが、現実には大半事業所が付き添い『看護連絡ファイル』でかかりつけ医に情報を提供し受診している事から、かかりつけ医との連携が密であり適切な医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	処方された服薬剤や医療面での疑問相談を看護師と密に話し合い、その場で解決できない事柄は主治医に意見を求めるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院には介護記録のや介護計画の医療機関への提供や看護サマリーの受理を行い、迅速なサービス対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との連携と看護師、医療機関との連携も含めその人に合った対応をチーム全体にて協力しながら取り組んでいる。	事業所の方針として、重度化や終末期の対応については、利用者の心身の状態を見ながらその都度家族・かかりつけ医と相談、連携しながら、出来得る限り終末期までの支援をする方針であり、職員も同じ想いで終末期の支援は共有できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内の緊急対応マニュアルを作成し事業所内で見えるところに設け職員全体に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施と、年2回の消防保守点検・消防機器点検の実施を怠ることなく取り組んで災害対策に努めている。	設備はスプリンクラー、調理器具もIHが設置され、消防署の設備等の点検も実施している。非常災害対策としての避難訓練等は7月以降に実施される計画であるが、調査時点では実施されておらず今後の課題となっている。	利用者と職員が昼夜を問わず安全に避難できるように、事業所の立地から特に地震を想定し、災害発生時(夜間含)に事業所独自で職員個々の役割を明確にし、的確な初期動作が出来るよう定期的に避難訓練されることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を十分に把握し、人格と尊厳を尊重してコミュニケーションをしている。	利用者個々人格ある人と意識し、プライバシーを害しない言動を心がけている。何事も本人本位の自己決定で暮らしが出来るようにしている。特に羞恥心の面では、排泄時や入浴時、居室に入る時には細心の注意を払いながら接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事業所から入居者に与えるサービスではなく、興味の持っている要望や趣味を自己決定し、実践してもらうことのできる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の時間をできる限り個人的に使ってもらえるように支援しています。また、趣味の作品の展示し、周知してもらうことでその人が意欲の出る環境に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床してから着替えや洗顔をし、外出時には外出用の着衣・化粧をしたりと整容支援をできるようにしています。家族にも季節に応じた服の入れ替えの努力にも協力してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事制限のある人にも主治医との相談を踏まえ可能な限りの食事提供を行ったり、また、食材の準備や配膳、下膳の手伝いなどは職員と共にしている。	献立は利用者の希望も入れ、食材は旬の野菜や新鮮な魚、肉類等を準備し、利用者も調理、盛り付け、配膳等それぞれが出来ることを職員と一緒にしている。三食とも職員手作りの多彩で美味しい料理が出され楽しい食事タイムとなっている。調査当日の昼食に利用者がプランターで育てた新鮮な野菜(ズッキーニ、韭、春菊等)が美味しく調理されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医、看護師との相談を留意して、差別感の出ない献立と盛り付けに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の定期受診口腔ケアや義歯の作成など歯科医師の指導を取り入れた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿は自分でしてもらうことを基本的にし、一人で不可の人には見守りを持って対応しています。排便に関しては可能な人にはチェックシートをトイレ内に設置し、記入してもらうようにしている。	現状の排泄支援は、一部介助が必要な利用者が2名いるが、その他の利用者はその日の表情やしぐさを注視しながら、誘導と見守りの支援で自立でのトイレ排泄が出来ている。目指すは現状維持の自立排泄の暮らしとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と看護師との相談のもとに食事面の工夫をし、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	男女の入浴日を別にし、男女の尊厳を持って気兼ねすることなく入浴をしてもらえるように配慮している。	お風呂は毎日沸かしているが、男女の尊厳に配慮し、男性は(火、木、土)女性は(月、水、金)として、利用者の体調や希望に合わせて平均週3回午後入浴にしている。浴室は大変広く一人でゆっくり、ゆったり寛げる入浴となっている。	敢闘
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間等の決まりを設けず居室内ではTVを見たり趣味の絵を描いたり、早く就寝したりとその人ごとに休息時間等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その日処方された服薬剤は看護師に確認してもらい個々に朝・昼・夕・眠前と配薬管理し、職員と連携した管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	菜園の水やり、新聞を取りに行く役割、趣味の工作など個人の楽しみを生活の中でできる限り取り入れた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候・温度の良い日は歩いて近所まで散歩をしたり、川沿いに咲く花などに触れたり積極的に戸外へ出向く機会を設けている。	事業所周辺の散歩、近くのキノコ栽培所へ買物、外気浴を兼ねて家庭菜園の水やり等の手入れ、近隣の通所介護事業所との交流、かかりつけ医への通院、又、ドライブを兼ねて自宅の柿狩り、ポニーが飼育されている牧場見学、時々の外食、桜の花見等多くの外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる入居者には家族と本人の理解を優先し、所持してもらっています。家族様の意向により所持しない入居者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話をすることは無いですが、お正月には年賀状が届いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物のつくり設計が木材の素材をそのまま活用しているため事業所内が明るくまた一列平行に居室・食堂は配置設計されているので比較的資格の少ない作りになっています。事業所内には季節のイベントの写真を掲示し施設内の季節感を演出している。	全ての共用空間掃除が行届ききれいである。玄関や居間には季節の花が飾られ季節感が感じられる。居間や廊下の床は無垢の木が一面敷かれ木の温もりが肌で感じられる。広い廊下の天井には天窓があり、居間も天井が高く自然の光がさしこみ、居心地良く過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う同士間の居場所空間を配慮したテーブル座席の配置とそこに職員も入れるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた備品を自宅より持ってきてもらったり、好みのレイアウトをしてもらうことで各居室の違いを出してもらっている。	各居室ともきれいで整理整頓されている。居室への持ち込みは何でも自由であり、仏壇、テレビや使い慣れた家具、お好みの衣装、家族の写真、趣味の絵を書く画用紙、クレヨン等、又、ダンスの上にはお好みの小物や写真が随所に飾られ、それぞれがお好みの部屋づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下足元には余計なものを配置せず、毎日掃除を徹底し安全・安心配備に心掛けている。		